

2020年度 新入生アンケートの結果と経年変化（近3年）比較報告書

2020年度データ回収状況(期間:5月15日～6月26日)

	登録者数(人)	回答者数(人)	2020 回答率 (%)	2019 回答率 (%)	2018 回答率 (%)
日本語日本文学科	59	54	91.5	96.7	91.2
歴史文化学科	57	54	94.7	98.2	98.3
幼児教育専攻	112	107	95.5	100	99.2
学校教育専攻	89	89	100	100	98.9
特別支援教育専攻	35	35	100	100	93.9
人間社会学科	89	86	96.6	97.8	97.6
スポーツ健康学科	110	92	83.6	98.1	92.9
薬学科	141	135	95.7	98.5	92.4
合計	692	652	94.2	98.7	95.6

昨年度に引き続き、どの学科も、未回答者への督促・指導に丁寧に取り組んだ。昨年度や一昨年度と比較して回答率が減少したのは新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策(以下「新型コロナ対策」と記述)のため、学生の登学を禁止していたため、未回答者へ対面での督促・指導が叶わなかったことが原因として考えられる。しかしながら、そのような状況においても9割を超える高い回答率を維持することができたのは十分に評価できる。一般に「Web方式でのアンケートは、回収率が低い」と言われているが、本状況下ではWeb方式だからこそ回答を得ることができたものであり、過年度からの教職員の熱心な取り組みに敬意を表すとともに、学生の協力にも感謝したい。今後もこの状態が維持されるよう、教職員・学生への啓発活動に努めていきたい。

以下は、全学共通の質問についての分析結果である。なお、表中の「連続」は「2018, 2019, 2020年と連続して増加、あるいは減少」した項目に、「増」、あるいは「減」と表記した。

問1 大阪大谷大学に入学して満足していますか（単一回答のみ）

	人数(人)			割合(%)			
	2020	2019	2018	2020	2019	2018	連続
満足している	159	209	221	24.4	31.1	32.6	減
やや満足している	233	304	289	35.7	45.2	42.7	
どちらとも言えない(普通)	222	139	135	34.0	20.7	19.9	増
あまり満足していない	28	11	20	4.2	1.6	3.0	
満足していない	10	9	12	1.5	1.3	1.8	減
合計	652	672	677				

【考察】

・「満足している」と「やや満足している」を合わせた肯定的回答(満足群)は 60.1%であり、昨年度比-16.2%、一昨年度比-15.2%となった。一方、「あまり満足していない」と「満足していない」を合わせた否定的回答(不満足群)は昨年度比+2.8%、一昨年度比+0.9%となった。また、どちらとも言えない(普通)は昨年度比+13.3%、一昨年度比+14.1%であった。全体として不満足群が微増、満足群が大きく減少、どちらとも言えない(普通)が大きく増加したという結果であったが、これは新型コロナ対策のため入学してからほとんど登学することができなかったという例年とは大きく異なる状況の中で、満足とは言えないと判断した新生が増加した他、多くの新生が満足・不満足の判断ができなかった結果であると考えられる。本設問は本年度の新生を取り巻く状況を如実に反映したものと言えるだろう。

問2 本学を受験校に選んだ理由は何ですか（複数回答可）

	人数(人)			割合(%)			
	2020	2019	2018	2020	2019	2018	連続
理念・校風	38	25	23	5.8	3.7	3.4	増
教授や講師	53	49	30	8.1	7.3	4.4	増
学びたい学科・専攻がある	502	428	443	77.0	63.7	65.4	
少人数教育	97	82	91	14.9	12.2	13.4	
資格・教採対策指導の充実	118	103	112	18.1	15.3	16.5	
就職に強い	46	40	47	7.1	6.0	6.9	
現場体験を多く積める	53	26	42	8.1	3.9	6.2	
資格・免許が取得できる	356	300	311	54.6	44.6	45.9	
他大学に入学できなかった	122	175	160	18.7	26.0	23.6	
入学の難易度が自分にあう	135	109	114	20.7	16.2	16.8	
通学に便利	116	117	99	17.8	17.4	14.6	増
人から勧められて	130	119	108	19.9	17.7	16.0	増
クラブ活動に魅力	64	66	64	9.8	9.8	9.5	
その他	17	10	12	2.6	1.5	1.8	

※その他の内訳(原文のまま掲載):

- ・スポーツが好きだから
- ・留学生あまりいないので、日本語能力が上がる
- ・将来の夢が決まっていなくて、1年生の間で学びながら決められると思ったから
- ・学内推薦
- ・教育免許など昔考えたことのある将来や一般企業への就職など選択肢が広がったから
- ・高校の先生に勧められた
- ・過去の卒論に日本神話を題材にしたものがあったため
- ・同じ学校の人が誰もいなかったから
- ・オープンキャンパスのときに受けた模擬授業が印象に残ったから
- ・特待生制度(3件)
- ・食堂のメニューが魅力的だったから
- ・学費免除の制度が充実していたから
- ・3つのコースに分かれて得意分野を伸ばせる
- ・コース選択があったため
- ・指定校推薦があったため

【考察】

・昨年度は2年連続で割合が増加した項目はなかったが、今年度は「理念・校風」「教授や講師」「通学に便利」「人から勧められて」の項目が2年連続して増加した。これは受験生や保護者、また高等学校に対する粘り強く地道な広報活動が実を結んだ結果といえるだろう。一方で昨年度まで連続して減少していた「学びたい学科・専攻がある」「就職に強い」「現場体験を多く積める」「資格・免許が取得できる」「入学の難易度が自分にあう」の項目については本年度から大きく増加に転じており、これも近年、就職・現場体験・免許資格といった“実践力養成”に対する期待感が後退しつつあったことに対して、真摯に対応してきたことの現れであると評価できる。その他の項目も全体的に順調に増加しており(「他大学に入学できなかった」というネガティブな選択理由は減少している)、教学並びに広報の方向性が適切であったことが客観的に示されている。

問3 学生生活の中で特に力を入れて取り組みたいことは何ですか（複数回答可）

	人数(人)			割合(%)			
	2020	2019	2018	2020	2019	2018	連続
資格・免許の取得	501	519	509	76.8	77.2	75.2	
(教採・公務員・国試などに)合格するための勉強	385	355	368	59.0	52.8	54.4	
専門分野の知識・理解	334	274	274	51.2	40.8	40.5	増
幅広い教養	249	179	191	38.2	26.6	28.2	
人間関係を築く	261	202	192	40.0	30.1	28.4	増
部活・サークル活動	215	247	248	33.0	36.8	36.6	
語学の習得	95	70	70	14.6	10.4	10.3	増
趣味やアルバイト	223	238	224	34.2	35.4	33.1	
ボランティア	82	118	133	12.6	17.6	19.6	減
インターンシップなど	104	61	81	16.0	9.1	12.0	
海外留学・研修	33	34	37	5.1	5.1	5.5	
その他	1	2	4	0.1	0.3	0.6	減

※その他の内訳(原文のまま掲載):

- ・自分に合った将来の夢を見つけること

【考察】

・本設問では「専門分野の知識・理解」「人間関係を築く」「語学の習得」という3つの項目において2年連続で割合が増加した。中でも「専門分野の知識・理解」は昨年度比で10%以上増加しており、本学でしか学べないことを学びたいという、本学の特色への期待が現れたといえる。また、「人間関係を築く」は一昨年度と昨年度までは微増の傾向にあったが、今年度急激に増加した。これは、新型コロナ対策として登学ができない中で、友だちができるだろうか・良好な人間関係を築けるだろうかといった学生の不安の現れとみることができる。一方で、「ボランティア」については本設問の中で唯一2年連続して減少している。これも、新型コロナ対策の中で、外に出て活動するという発想に至りにくかったからだと考えられる。今後の状況次第では、大学からボランティアの活動についての説明や活動先の紹介を積極的に行うことが必要であると考えられる。

問4 今後、学生生活を送るうえで不安がありますか（複数回答可）

	人数(人)			割合(%)			
	2020	2019	2018	2020	2019	2018	連続
授業(勉強)	551	428	423	<u>84.5</u>	63.7	62.5	増
就職	255	289	303	39.1	43.0	44.8	減
教員・公務員試験対策	220	232	240	33.7	34.5	35.5	減
資格・免許取得	359	331	324	55.1	49.3	47.9	増
教員	42	31	40	6.4	4.6	5.9	
友人(先輩)	255	118	90	<u>39.1</u>	17.6	13.3	増
部活・サークル	136	95	93	20.9	14.1	13.7	増
アルバイト	87	90	96	13.3	13.4	14.2	減
通学	78	71	85	12.0	10.6	12.6	
パソコンの活用	175	138	158	<u>26.8</u>	20.5	23.3	
学費	127	129	161	19.5	19.2	23.8	
新生活環境への適応	223	95	86	<u>34.2</u>	14.1	12.7	増
英語(外国語)	199	159	162	30.5	23.7	23.9	
特にない	18	43	33	2.8	6.4	4.9	
その他	9	2	3	1.4	0.3	0.4	

※その他の内訳(原文のまま掲載):

- ・一人暮らし
- ・明確な、自分に合った将来の夢が見つけれられるか
- ・海外留学ができるかどうか
- ・オンライン授業を行なっていますがテストが不安です。正直良い点数取れる気がしないです。
- ・本格的に対面授業が始まった時にしっかり勉強できるか
- ・まだこの生活に慣れていない中、課題が多く感じているため、課題の提出が滞りなくできるか不安。
- ・課題の多さ
- ・施設使用費が、コロナで施設を使えないにもかかわらず、払わなければいけないこと
- ・全て

【考察】

・2年連続で不安が減ったのは、15項目中(「その他」を含む)3項目であった。「就職」「教員・公務員試験対策」などの大学卒業を見通した学修関連項目だけでなく、「アルバイト」など直近の学生生活にかかる不安要因も減少している。しかしながら、今年度は5つの項目が2年連続して増加しているのは看過できない。具体的には「授業(勉強)」「資格・免許取得」「友人(先輩)」「部活・サークル」「新生活環境への適応」であり、中でも「授業(勉強)」「友人(先輩)」の割合は前年度比20%越え、「新生活環境への適応」の割合も20%に迫る増加と、異常ともいえる伸びである。これらの原因としては新型コロナ対策が大きく影響していると考えられ、今後の状況の推移に関わらず、学業についてはもちろんのこと、人間関係や学生のメンタルヘルスといった様々な面に細やかな目配りをしていく必要がある。また、これまで減少傾向にあった「パソコンの活用」が増加に転じており、入学前の時点から遠隔授業の受講に際して必要となる、ICTのスキルを学習する機会を設けることが必要であるとする。

【総括および大学の対応】

2020年度は、前年(2019年)度と比較し「本学の校風や理念に共感し、学びたいこと・目的意識・目標を明確に持ち、専門分野の知識の理解・修得に力を入れて取り組みたいと考える新入生が多いことがうかがえた。また、入学への満足度については現時点で判断がつかない学生が多数である。」と総括した。

本年度は新型コロナ対策のため、学生が登学して対面授業を受けるという機会が極めて少なかったため、「大学生活」というものに実感を持ちにくかったと推察され、入学したことへの満足感については、「どちらとも言えない(普通)」が34.0%と前年度(20.7%)と比べ大きく増加した。満足群については昨年度と比べ減少しているが、依然として「やや満足している」が35.7%と全体の中で最も多くの割合を占めている。つまり、この状況に悲観することなく適切で学生にとって納得のできる対応を取っていくことで、学生の満足感を上げることは十分に可能だと考える。また、本状況の中で不安が増大していることが明らかになったことも、重要な結果である。今後、学生一人ひとりに対する個人情報に基づく個別学修支援の他、人間関係の構築やメンタルヘルスといった様々な面での、きめ細やかな支援を充実していくことが喫緊の課題である。

以上